

万富東大寺瓦窯跡と重源関連遺跡

岡本芳明

【講座の概要】

「源平の戦い」によって焼失した東大寺は、大勧進（東大寺復興の責任者）となった俊乗房重源により、朝廷や鎌倉幕府などの支援を得て復興された。

岡山市東区瀬戸町万富には、鎌倉期の東大寺再建瓦を製造した窯跡群がある。国史跡万富東大寺瓦窯跡である。備前国は、東大寺復興のため建久四年（1193）に東大寺造営料国となった。備前国では、焼き物の生産が盛んであり、この地が、吉井川の水運を利用して材料や製品の運搬に適していたため、東大寺瓦の生産地に選ばれたものと考えられている。

重源上人は、東大寺復興を進めるなかで、各地の仏教の布教に努め、荘園の開発や交通整備に伴う土木事業を行って戦災復興に貢献した。重源と縁のある地では、それらを示す遺跡がみられる。

今回は、万富東大寺瓦窯跡とその周辺の重源関連遺跡を紹介する。

・（国史跡）万富東大寺瓦窯跡

鎌倉期の東大寺再建瓦を製造した窯跡。14 基の瓦窯や操業当時の礎石建物跡、工房跡などが確認されている。製造された瓦は、大仏殿のみではなく中門や回廊、南大門、鐘楼にも使用されたと考えられており、30～40 万枚の瓦を生産した大規模な瓦製造工場であった。昭和二年（1927）に国史跡に指定されている。

・阿保田神社

万富東大寺瓦窯跡を見下ろす丘の上に鎮座。東大寺瓦製造時に、東大寺の守神である手向山八幡宮を勧請したといわれている。備前国神名帳に見える古社で、元禄十三年（1700）銘の八幡宮の扁額が示すように、古くは八幡宮の社号であった。明治以後に現在の社号に復した。境内で東大寺瓦が出土する。

・金山遺跡

北に開く谷筋の出口に銅滓が分布。銅滓を集めてできた塚状盛土がある。付近から、平安時代末から鎌倉時代初頭の銅鏡が出土。なお、金山には銅の採掘坑があり、徳川初期以前に採掘し廃坑となったものとみられている。

・保木風呂屋遺跡

風呂屋という地名の畑がある。畑は、一辺約 19m で、北側と西側に人頭大の栗石で石垣が築かれ、径 1 m 程の井戸が組み込まれている。重源がつくった湯屋跡と推測されている。

・吉井川倉地沖遺跡

川底から東大寺瓦が多数採集されている。瓦の運搬中にこぼれ落ちたものといわれるが、水神に奉納されたものという説もある。

・ひ爪神社

吉井川に面して、熊野神社（赤磐市）と並列して鎮座。備前国神名帳に見える古社で、宋様式の技法でつくられた石製狛犬が一体ずつあった（内、一体は所在不明）。この狛犬は、東大寺瓦輸送の安全を祈念して奉納されたものと考えられている。

【交通】万富東大寺瓦窯跡：JR 山陽本線「万富駅」から北東へ徒歩約 400m

【参考文献】

『史跡万富東大寺瓦窯跡確認調査報告』瀬戸町教育委員会 2003

『瀬戸町誌』瀬戸町 1985

『改修赤磐郡誌』赤磐郡教育会 1940

『太田吉岡村誌』赤磐郡太田村・吉岡村立千種尋常高等小学校組合 1924

『改訂岡山県遺跡地図』＜第 9 分冊 東備地区＞岡山県教育委員会 2003

東大寺再建関係略年表

西暦	和暦	事項
1180	治承四	源平の争乱で東大寺が焼ける。 以仁王が平氏追討の令旨を発する。源頼朝が挙兵。
1181	治承五 養和元	重源、造東大寺勸進職に任命される。大仏の螺髪を鋳始める。 平清盛が死去（64歳）。
1185	元暦二 文治元	「壇ノ浦の戦い」で平氏が滅びる。 東大寺大仏開眼供養。
1186	文治二	周防国が東大寺造営料国となる。翌年より、杣から木材を切り出す。
1187	文治三	源頼朝、東大寺復興の木材運搬を妨害しないよう周防国の地頭に命ずる。 この頃、周防阿弥陀寺創建。重源、備前国荒野開発の妨害停止を奏上。
1190	建久元	東大寺大仏殿上棟。
1192	建久三	後白河法皇が死去。播磨国大部荘を東大寺領として復興し、播磨浄土寺を建てる。
1193	建久四	播磨国・備前国が東大寺造営料国となる。
1195	建久六	大仏殿・中門などが完成。東大寺供養が行われる。重源、大和尚号を得る。
1196	建久七	魚住泊・大和田泊の改修計画が認められ、国衙に協力が命じられる。 東大寺大仏殿の石の脇土像、四天王像、中門の石獅子などがつくられる。
1199	正治元	源頼朝が死去。
1203	建仁三	東大寺総供養。 『備前国麦進未進納所惣散用帳』に万富産の瓦を示す「吉岡御瓦」の語句あり。 重源、『南無阿弥陀仏作善集』作成。翌年、東大寺東塔の造立を開始。
1206	建永元	重源、東大寺浄土堂で死去（86歳）。



万富東大寺瓦窯跡と周辺遺跡図